

第1学年3組 英語科学習指導案

日 時：令和元年10月16日（水）

場 所：1年3組 教室

指導者：教諭 須山 初美

1. 単元名

Unit5 「学校の文化祭」 (New Horizon English Course 1)

～ A L T におすすめの料理を紹介したり，A L T の質問に答えたりしよう。～

2. 単元目標

- ・間違いを恐れず，積極的に相手と対話をしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・A L T の先生におすすめしたい料理を紹介し，A L T の先生の質問に答える。【外国語表現の能力】
- ・疑問詞 what, be 動詞＋補語（形容詞）を用いた文構造を理解する。

【言語や文化に対する知識・理解】

3 単元の評価規準

(1) 評価規準

- ・間違いを恐れず，積極的に相手と対話をしようとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・A L T の先生におすすめしたい料理を紹介し，A L T の先生の質問に答えることができる。

【外国語表現の能力】

- ・疑問詞 what, be 動詞＋補語（形容詞）を用いた文構造を理解している。

【言語や文化に対する知識・理解】

(2) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標との関連

【第1学年】

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
○自分のことや，自分以外の人について，3文以上の英文で正しく話したり，質問したりすることができる。 ○場面にふさわしい簡単な表現を用いて質問したり，質問に回答したりすることができる。	○自分の身近なこと（日常生活や身近な話題）について，3文以上の英文で正しく書くことができる。	○簡単な内容の英文を正しく聞き取ることができる。	○正しい強勢やイントネーション，区切り等を意識して，英文を音読することができる。 ○WPM40以上のスピードで英文を読み，概要を読み取ることができる。

3. 基盤

○ 本単元は、学校の文化祭を背景として食文化を取り扱っている。前半では、日本とインドのカレーの材料の違いや、食べ方の違いが紹介され、後半では、世界の朝食が写真で紹介され、外国でも日本食に注目されてきていることが分かるような対話になっており、食における諸外国と日本の食文化の違いや風習・マナーについて知ることができる単元である。そして、自国の食文化を伝えたり、他国との違いを尋ねたりする表現活動を行うのに適した単元である。また、“What is ...?”や“What do you ...?”という言語材料は未知の物事について尋ねるのに適した言語材料である。前単元の How many...?に加え、知りたいことを直接問うことができ、既習の表現に加えてこれらの表現を学習することで、さらにコミュニケーションを取り、表現の幅を広げながら、知らないことや分からないことに対して尋ねることができるようになると考えられる。

教科書本文の対話では、相手の言ったことに対して、“That’s good.”，“Really?”，“How about you?”のように対話を続けていくための表現や、文末に“..., right?”と自分の言ったことが正しいかどうか確認する時の表現も取り上げてあり、相手とのやり取りを続けていく際の便利な表現が扱われている。言語活動において生徒にぜひ使えるようにさせたい表現である。

○ 〈個人情報保護のため省略〉

○ “What’s this?” “It’s” に関して生徒は、外国語活動や中学校の入門期から慣れ親しんでいるので、this の部分が your favorite+名詞や、the date 等にすれば、表現の幅が広がることに気づかせ、日頃から生徒に使用できる場面を与えていく。また、疑問詞 what を使った質問では、be 動詞と一般動詞の文を混同しないように、定着を図った上で、既習事項を加えながらやり取りができるように言語活動を通してさらに表現できるようにしていく。

be 動詞+形容詞の文については、対話の中で感想を言ったり、食べ物の味や物事の様子や状態を伝えたりすることで、様々な形容詞が使えることを知り、教科書の新出語句以外にも自分の知りたい形容詞については、辞書を利用しながら表現できるようにさせたい。

また、生徒の発信力を高めるために、各単元の中で、生徒が、「英語を使って何ができるようになるか」を明確にし、目標に応じた言語活動を工夫し、キーセンテンス導入場面、慣れ親しむ場面、既習表現を活用して伝え合う場面のステップを踏んで単元を構成する。

単元の最終段階では、自分のおすすめの料理をALTに紹介し、ALTからの質問にも答える活動を行う。話すことにおいて、あらかじめ準備をしてALTに紹介する発表と、ALTからの質問に答える即興的なやり取りの両方を設定することで、本単元での話すことの最終ゴールとした。発表に関しては、伝えたいことはメモ程度に留め、相手を意識して対話ができるようにしたい。

5. 単元の指導計画（7時間）

時	○ねらい ・学習内容	主な評価規準		
		ア 関・意・態	イ 表現の能力	ウ 知識・理解
1	<p>A L T におすすめの料理を紹介したり、A L T の質問に答えたりしよう。 (単元ゴール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 <p>○What is ...? の文とその応答の文構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して What is this? の文とその応答の文構造を理解する。 ・本文の内容を理解し、音読練習をする。 			①疑問詞 what is ...? の文とその応答の文構造を理解している。
2	<p>○be 動詞＋補語（形容詞）の文構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して、形容詞の用法を理解し、物事の感想・状態を表現する。 ・本文の内容を理解し、音読練習をする。 			②be 動詞＋補語（形容詞）の文構造を理解している。
3	<p>○What is ...? と be 動詞＋補語（形容詞）の文及び既習表現を使って対話を続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を音読し、ペアで練習する。 ・What is your favorite ...? を使った対話を復習し、質問に対する答えだけでなく、感想も加えて伝える練習をする。 	①What is ...? と be 動詞＋補語（形容詞）の文及び既習表現を使って対話を続けようとしている。	①What is ...? と be 動詞＋補語（形容詞）の文及び既習表現を使って対話を続けることができる。	
4	<p>○What do you ...? の文とその応答の文構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して、What do you ...? の質問と応答を練習する。 ・教科書本文の内容を理解し、音読練習をする。 			③What do you ...? の文とその応答の文構造を理解している。

5 (本時)	○What do you ...?の文とその応答文及び既習表現を使って対話を続ける。 ・教科書本文を音読し、ペアで練習する。 ・What do you ...?を使った対話を復習し、質問に対する答えだけでなく、聞き返したり、他の質問をしたりするなどして、対話を続ける。	②What do you ...?とその応答文及び既習表現を使って対話を続けようとしている。	②What do you ...?とその応答文及び既習表現を使って対話を続けることができる。	
6	○おすすめしたい料理について自分の考えを述べる。 ・紹介したい料理を決め、なぜおすすめしたいのか、どんな料理かをメモにまとめる。 ・メモを参考にしながら、伝えたいことをペアで練習する。	③おすすめしたい料理について自分の考えを述べようとする。	③おすすめしたい料理について自分の考えを述べることができる。	
7	○ALTにおすすめしたい料理について間違いを恐れず、自分の考えを述べたりALTの質問に答えたりする。 ・おすすめしたい料理について説明する。 ・ALTからの質問に答える。 【総括的評価】パフォーマンステスト	④間違いを恐れず、積極的にALTと対話をしようとしている。	④ALTにおすすめしたい料理を紹介し、ALTの質問に答えることができる。	④疑問詞 what, be 動詞＋補語 (形容詞)を用いた文構造を理解している。

6. 本時の学習

(1) ねらい

What do you ...?とその応答文及び既習表現を使って対話を続ける。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】【外国語表現の能力】

(2) 展開

学習活動	教師の支援	評価規準 (評価方法)
○あいさつ ○Bingo ○Quick Q & A ・1回目はワークシートのQ & Aを使用してペアで練習する。 ・2回目はペアを変え、違う語句を用いてペアでやり取りする。	・復習として、前単元の単語を発音する。 ・相手を意識して練習をするように伝える。 ・どんな語句を用いればよいか分からない場合はペアで考えたり、教師に尋ね	

<p>○本時の流れとめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>朝食や夕食に何を食べるのが好きかたずねたり、答えたりしながら対話を続けよう</p> </div> <p>○前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の新出単語と本文を練習する。 ・語句単位で練習後、文単位で音読する。 ・教科書を徐々に見ないで音読する。 ・ペアで音読する。 <p>○教科書本文を用いて生徒自身の対話にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師とのやり取りのモデルを見る。 ・複数回のペアとやり取りをする。(言語活動①) ・中間評価 (シェアリング) ・違うペアと再度やり取りをする。(言語活動②) ・全体で何ペアか発表する。 <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表を記入する。 ・次時の予定について聞く。 	<p>たりすることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を見ずにペアで音読できるように様々な練習方法で行う。 ・このやり取りの対話が次回のALTとの対話にも生かせることを意識させる。 ・既習事項を加えながら、会話をつなぐ表現やあいづちを使いながら対話をするように伝える。 ・良いやり取りを紹介したり、困ったことを全体で共有したりして、既習表現を想起させる。 ・必要に応じて再度シェアリングをする。 	<p>ア② イ② (観察)</p>
---	--	---------------------------

(3) 本時の具体的な生徒の姿の例と支援

評価 規準	『十分に満足』と判断される生徒の具体例	『概ね満足』と判断される生徒の具体例	『支援を必要』とする生徒への指導の手立て
ア② イ②	間違いを恐れず、ペアワークを1回目、2回目と回数を重ね、内容を改善しながらやり取りをしている。	間違いを恐れず、ペアワークを1回目、2回目と回数を重ね、内容を改善しようとしながらやり取りをしている。	どんなことを伝えたかったのか、使いたかったが分からなかった単語等を紹介し、回数を重ねながら少しずつ伝えることが増えるように支援する。

(4) 授業研究の視点

ねらいを達成するために本時の言語活動は適切であったか。